

令和元年度第1回太宰府市立図書館協議会 会議録

日時 令和元年10月17日(木) 18:00~19:45
場所 プラム・カルコア太宰府 研修室1
出席者 協議会委員: 時里会長、穂坂副会長、藤野委員、黒田委員、前田委員
※欠席 八尋委員、野田委員
事務局: 市民図書館(田村館長、百田課長、西田係長、斉藤司書)
傍聴人 なし

○館長

9月に、ドキュメンタリー映画「ニューヨーク公共図書館」の上映が1日だけ開催されました。図書館の関係者ではない太宰府市民の方もご覧になられており、図書館に期待するものがあるので来られているのではと感じました。市民に開かれた図書館になっていかなければならないと考えております。

○事務局

今年度より図書館協議会委員が1名増え、中学校校長会から太宰府西中学校の前田校長に就任いただいております。

協議事項

(1) 平成30年度の報告(館報)について

○事務局

月別の貸出について、特別整理期間や年末年始など休館日の多い月は貸出が少なくなっています。

平成29年度と30年度を比較すると、利用者及び貸出数ともに減少していますが、移動図書館車の利用人数は増えています。

筑紫地区の個人貸出数、新聞・雑誌を含む資料購入費、人口、の比較表を参考に配布しております。今年度の資料費の予算額は太宰府市が一番低い状況です。利用者の内訳を見ますと、那珂川市や大野城市は市外の住民の利用も多いようです。太宰府は約87%が市民の利用ですが、大野城は市民利用が67%となっており、図書館の立地条件も貸出数に影響していると思われます。資料費が少ないと新しい本の購入も少なくなりますので、新刊の本が多い図書館の方を利用される方もいらっしゃるようです。

館報に戻りますが、蔵書の年間受入数は、購入分と寄贈いただいたものを合わせたものです。他市と比較すると年間受入数も少なくなっており、資料費予算が蔵書の内容に影響しています。

移動図書館「すくすく号」は本館に比べて子ども達の利用割合が多く、図書館まで足を運ぶことが難しい子ども達や高齢者の方にさらに利用していただけるよう、今後も広報等で周知をしていきたいと考えております。

まとめて本をお貸しする団体貸出の登録団体には学級文庫の数も含まれております。学期ごとに本の入替を行っています。

おはなし会の人数ですが、「ひよこのおはなし会」は前年度より参加者が増えており嬉しく思います。出張おはなし会は、長期休み期間の学童保育所や、各学期に1回ずつ特別支援学校へも出向き実施しています。今年度は新たに障がい児デイサービス

施設にも出向いておはなし会を行いました。

毎年小学生の館内見学や中学生の体験学習を受け入れております。

30年度の決算及び31年度の予算についてですが、30年度は監視カメラ設置及び電動シャッターの取替え工事を行ったため、決算額が例年より増えています。今年度で26回目になる企業からの寄附金と、個人からの寄附金を毎年いただき、図書の購入に充てさせてもらっております。

30年度の行事報告のうち、7月に予定しておりました「七夕まつり」は豪雨のため中止いたしました。

○黒田委員

学校支援として、放課後などに中学校へ（移動図書館車の）巡回は無いのですか。

○事務局

小学校はお昼休みに利用してもらっていますが、中学校は部活もあるので、放課後の利用も難しいと思われます。

○時里会長

貸出数は減少傾向ですが、同規模人口の図書館で比較してみると、貸出数は多いようです。全国的に貸出数は減ってきているなかで、総数は減少しているが健闘はしている状況です。大学でも貸出しが減少してきています。新しい学科も創設されていますが、SNSやネット等の影響もあり、本の貸出しはありません。

図書購入費の予算を見ると減少はしていますが、市全体の一般会計に占める図書館費の割合は、資料によると平成29年度より30年度の比率が高くなっています。ということは、太宰府市の財政が厳しいのだと感じました。市町村の財政に大きく左右されるのは仕方がないことだと思います。大学の図書館も同様に厳しい状況です。

本日配布の資料では、大野城市は資料費予算が減少しても貸出数は増えています。理由は何か。やはり立地でしょうか。

○事務局

大野城市の貸出数は、一度減少してまた増加していますが、この時期に改修工事を行い館内の整備をされています。立地条件のみでなく、ハード面の改善も理由だと考えられます。

○黒田委員

アクセスの良さもあると思います。イベントも多いですし。

○藤野委員

時間があるからちょっと図書館に立ち寄ろうという気持ちになります。

那珂川市は福岡市民の方がかなり利用してあります。隣接しているので利用しやすいようです。

○穂坂副会長

コミュニティバスを図書館の前に停めることはできないだろうかと思います。高齢者のためにも検討されたいかがでしょう。

(2) 平成30年度学校図書館支援の取組みについて

○事務局

小学校には毎週1回巡回をし、授業で使用する本の貸出しや配本、学校図書司書へのアドバイス、パンフレット等の配布を行っています。6年目になり学校図書司書連携をとりながら学校図書館運営のための助言等をしております。小学生の読書リーダー

一養成講座を市民図書館が主催し、そこで研修を受けた子ども達が学校に戻って、他の子ども達に読書の楽しさを伝えてもらっています。

授業で使う本を市民図書館から配本をしていますが、若い先生方はご自身が図書館の本で調べるといった経験が少ないので、授業でこんな本を利用したい声がありません。

中学校へも毎週1回市民図書館の司書が巡回しています。中学生向けに市民図書館で作成したYA（ヤングアダルト）通信や新刊本一覧を配布しています。また、学校図書館を通して市民図書館の本を貸出すことができます。学校間でのばらつきがありますが、読書が好きな生徒が一人いるだけで貸出数が大きく増えています。小学校で移動図書館車を利用していた生徒が、引き続き市民図書館の本を読みたいので利用していることもあるようです。

年1回市民図書館の寄贈本も含め、学校図書館間で不要になった資料交換会を行い、有効利用をしています。

課題は、小学校では、授業で図書館の本を使用してもらえるよう働きかけの後押しをすることです。中学校では、学校図書館の放課後開館時に子ども達にどのように利用してもらうか学校によって様々な考え方があるようですが、本の貸出しだけでなく子ども達の居場所となればと考えています。

学校ごとの学年別貸出数及び一人当たりの貸出冊数のグラフを資料に添付しています。

読書が大好きな子どもがいる学年が大きく伸びているという傾向もありますが、校内での読書への働きかけも影響しているようです。貸出しが伸びている学校では、読書ビンゴを開催したりなど、学校図書司書が様々な取り組みを行ってあるようです。

市民図書館の支援として研修会も開催しています。昨年度は数年ぶりに学校図書館関係者会議を開催しました。今年度は10月に学校教育課主催で、司書教諭・学校図書館司書合同研修会を開催し、各学校での取り組みについて情報交換をしていただきました。

学校図書館でも図書購入予算が厳しく、購入できる数も限られるため、蔵書の中には情報が古い本もあるようです。

○黒田委員

本の寄附の方法について、次回の図書館協議会の時に教えていただけますか。保護者の方にも声掛けをしたいと思います。小中学校の保護者向けにPRをされたいかがでしょうか。

(3) 第2次太宰府市子ども読書活動推進計画進捗状況について

○事務局

子ども読書活動推進計画は、乳幼児期、学齢期、青年期、協働と4つの区分で計画を作成しています。

まず、乳幼児期については、今回はごじょう保育所での取り組みも記載しております。訪問・出張おはなし会については、新たな施設からの要望もありますので、できるだけ受け入れたいと思っております。

学齢期については、学校図書館の充実のためにも、調べもの学習での取り組みにもう少し力を入れる必要があるのではないかと考えております。また、小学校では読書リーダーの活動の場があるが、中学校になると子ども達が自主的に活動することが難

しいという現実があります。今年度からは図書館主催で中学生向けのPOPコンテストも開催しています。家庭教育学級での読書推進に関連しまして、大人が本を読む環境でない子どもが読む環境が育っていかないため、家庭と学校で環境を作っていくことが大切になります。

青年期については、「YA通信」を季刊発行とし、お薦めの本や新着図書を紹介しています。中学生のPOPコンテストにつきましては、123点の応募がありました。審査も終わりました、作品は一旦学校にお返しし、校内で展示していただいた後、市民図書館内でも展示をする予定です。「協力体制の整備」及び「連携事業の推進」は、図書館内の努力だけでなく、小中学校あるいは大学の図書館等と交流し、環境を整えていかないとはいけませんので、少しずつ進めていっている状況です。具体的には、各学校に図書館刊行物を送付していますが、新たに高校1校にも送付をするようにいたしました。また、大学の学生証に住所の記載がないため、図書館利用登録の手続きが簡単にできなくなっていますので、登録手続き方法についての掲示を大学にご協力いただいています。また図書館内の相互貸借について、短期大学の図書館からお話をいただいておりますので、具体的に進めていっております。計画の期間中には協力できる形をつくりたいと思っております。

協働については、図書館ホームページで新規に各種テーマ展示資料のリストの公開や、図書館ボランティアの通年募集などの取り組みを行いました。高齢のボランティアの方もいらっしゃいますので、活動しやすいよう業務内容の見直しも行っております。

○館長

保育所太宰府園ではどのような取り組みをされてありますか。

○藤野委員

園内の図書室は毎週木曜日の貸出しで、月80～100冊の貸出数になります。一人当たり3冊までにしています。借りるこどもは大体決まっていますが、楽しみにしているようです。園外の方の利用は月6人から7人です。少しずつ広がっては来ていますが、小さい文庫ですので地道にやっております。これがこれから先の読書に繋がっていけば良いなと思っております。子ども達はとても本が好きです。その他に、読書ボランティア団体さんにも年4回来ていただいて、子ども達の年齢で分けてお話を聴く時間を取っています。4、5歳児は1時間位お話を聴きます。

今、大学の学生が卒論で絵本をテーマに毎週3回よみきかせに来ています。10分程度の素話若しくは耳で聴くお話をしております。耳で聴くお話が子ども達は大好きです。慣れないと入っていくのが苦しいですが、慣れてくるとその世界に入り込んでいます。

○前田委員

学齢期の取り組みについてですが、学校図書館を活用して調べ学習をするというのは、現実的に厳しいと思います。「各教科において」は「国語科において」と意味合いが違うと思います。「各教科において」の調べ学習はインターネットに負けます。「国語科において」の調べ学習は文字や言葉について調べる辞書があります。「各教科において」の調べ学習は辞典とか歴史書になるとと思いますが、それと辞書との違い、言葉でいうなら「調べる」と「読む」の違いです。「調べる」はインターネットに負けますが「読む」は勝ちます。ですから「読む」の方に力をいれるべきではないかと思っております。中学生は以前のようにゆっくり時間をかけてではなく、効率良く、手っ取

り早く、の時代になっています。部活に追われ塾に追われという実態もあります。その中で読むことに特化した形でPOP作りやビブリオバトルの取り組みの充実を図っていくという方が、今からの図書館のあり方としては現実的ではないでしょうか。

学校図書館はありますが、一方で設備としてパソコン教室の充実が図られています。調べものをする時に生徒をどちらに連れて行くかになると圧倒的にパソコンの方に行きます。時代に適した取り組みをしていかなければならないと感じます。

辞書を読むことは図書館にしかできません。辞書を活用した授業を行うのは国語科で他の教科では行いません。そのような視点も必要ではないかと感じています。

○時里会長

ネットでは出典などがわからないですので、リテラシーといえますか、方法はどのようにされているのですか。

○前田委員

子ども達はゴールを見つけに行き、教師は過程を大切にしています。子ども達は手っ取り早く調べられる方法を取ります。辞書を引くときに、結果だけ知る上で無意味と思われる時間があり、素早く結果だけを求める子ども達には図書館の本での調べ学習は難しいと思われます。なぜ図書館が必要なのか、本の良さについての記述も必要ではないかと思えます。ビブリオバトルは本を読まないとできませんから、国語科の中で取り組んでいきたいと思っています。

中学校図書館での貸出数が伸びている理由としては、図書館だよりの充実、新刊案内の仕方、貸出冊数の公表など、様々な工夫をされていることもあると思えます。

(4) 令和元年度事業進捗状況について

○事務局

今年度は「七夕まつり」を無事開催することができました。ただ、7月の朗読会は大雨のため中止いたしました。梅雨時期のイベントは中止になるケースが増えてきています。9月の「こどものための夏の終わりの演奏会」は大変好評でした。小学生の読書リーダー養成講座と合わせて今年からは中学生POPコンテストが新たな事業として加わっております。

○時里会長

本日の協議事項については、これで終了いたしました。

報告・その他

(1) 図書館利用者アンケートについて

平成30年度に実施した図書館利用者アンケートについて報告